

2005年5月9日

～九州地区のセブン-イレブン約700店にて導入開始～
「高圧」受電方式への変換で
電力料金の削減実現
～「低圧」受電から切り替えることで、年間コスト約5%削減～

株式会社セブン-イレブン・ジャパン（以下セブン-イレブン、東京都千代田区、代表取締役社長兼COO：山口俊郎）は、5月下旬より九州地区約700店において、電力を「低圧」から「高圧」での受電方式へ切り替えを行い、年間電力料金の約5%を削減してまいります。

IYグループでは、2000年より段階的に広がりつつある電力の自由化に対応し、電力料金削減の取り組みを進めております。セブン-イレブンにおいても、省エネルギー仕様の什器を開発するなど、コストの削減に対して積極的に取り組んでおりますが、電力料金についても、「低圧」受電している店舗を、「高圧」受電に切り替えることで、コスト削減が実現できることとなります。

「低圧」と「高圧」との間には料金価格差があり、特に九州地区においてはその価格差が大きいことから、「低圧」を「高圧」に切り替えた場合に効果的なコスト削減をすることができます。4月1日からの電力自由化の規制緩和を受け、低単価である「高圧」受電方式に切り替えたものです。

今回の切り替えに伴って、新たに店舗敷地内に「高圧」電力(6,600ボルト)を引き込む電柱と変電設備(100ボルト及び200ボルトに変換)を設置し、「高圧」電力の供給を受けて、それを変電設備で「低圧」変換することにより、「高圧」受電を活用できるように構築いたします。これらの設備の設置・管理については三井物産に委託しております。

セブン-イレブン全体の年間電力料金は、約270億円（内セブン-イレブン本部負担額220億円、店舗負担額約50億円：2004年度実績）と、コスト負担も大きいため、削減への取り組みを進めてまいりました。このたび九州地区約700店におけるコスト削減は、一店舗あたり年間平均電気料金約280万円の内、約5%の削減になることを想定しております。まず、九州地区の取り組みを十分検証した上で、他の地区について検討してまいります。

また、セブン-イレブンが「高圧」受電方式を採用することによって、IYグループ全体が「高圧」受電方式になるため電力の一括調達が可能となります。

そのスケールメリットを活かしながら、電力料金の削減をすすめてまいります。

以上